



管理番号：CIP 1-①  
2026年4月作成

# 感染症の基本と主な疾患

【プログラム名：微生物学・感染症学】

日本環境感染学会 認定制度教材

# 目次

1. 感染症とは

2. どんな感染症が ocorrência やすい？

3. 主な感染症の特徴

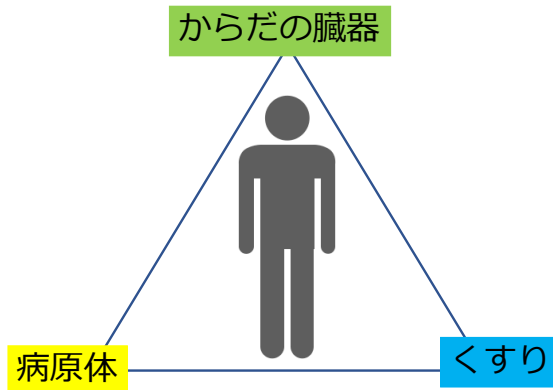
2



本講義の内容は、以下の3点です。

1. 感染症とは
2. どんな感染症が occurrence やすい？
3. 主な感染症の特徴

# 1. 感染症とは



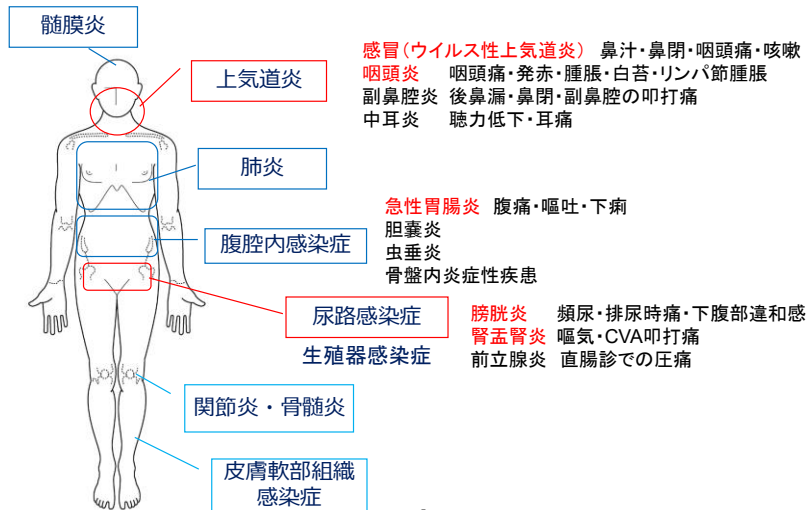
細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などの病原体（＝病気を引き起こす微生物）が体内に侵入し、増えることによって体に異常（症状）が生じる状態のこと

3



- 感染症とは、細菌、ウイルス、真菌、寄生虫といった「病原体」が体内に侵入し、増殖することで、体に痛みや発熱などの異常が生じる状態を指します
- 体（臓器）、病原体、そして治療のための薬、これら三者の関係を理解することが重要です

## 2. どんな感染症が起こりやすい？



4



体の中では、部位ごとにさまざまな感染症が起こります。

- 鼻水や咽頭痛を伴う上気道炎、咳や息苦しさを伴う肺炎、腹痛や下痢が生じる急性胃腸炎、頻尿や排尿時痛を伴う尿路感染症、皮膚が赤く腫れる皮膚軟部組織感染症などがあります。
- そのほかにも髄膜炎、関節炎、生殖器感染症など、全身のあらゆる場所が感染の対象となります。

### 3. 主な感染症の特徴

- インフルエンザ
- 急性胃腸炎
- 食中毒
- 誤嚥性肺炎
- 尿路感染
- 蜂窩織炎
- 带状疱疹
- 疥癬
- 結核



ここからは、医療・介護現場で特に会う機会が多い、インフルエンザ、急性胃腸炎、食中毒、誤嚥性肺炎、尿路感染、蜂窩織炎、带状疱疹、疥癬、そして結核の9つの感染症について、詳しく見ていきましょう

# インフルエンザ

## ■ 病気の特徴

冬に流行することが多いウイルス感染症

主な症状

- ・ 高熱（38℃以上）
- ・ 強いだるさ、頭痛、関節・筋肉痛
- ・ 咳、のどの痛み、鼻水

高齢者では注意

- ・ 高熱が出ないこともある
  - ・ 元気がない／食欲低下／ぼんやりする
- 感染力が強い

## ■ 診断方法

迅速抗原検査 etc

- ・ 10～15分で結果
- ・ 発症早期は陰性のこともあり



## 現場の重要ポイント

- ・ 症状出現時から感染対策が重要  
検査の正確さは100%ではありません。

→まわりの流行状況と本人の症状を考慮して飛沫対策（マスク着用、目の保護）などを行いましょう。



インフルエンザは冬に流行しやすいウイルス感染症です。

- ・ 38℃以上の高熱や強いだるさ、関節痛、咳、のどの痛みなどが主な症状ですが、
- ・ 高齢者の場合は高熱が出ないこともあるため注意が必要です。「元気がない」「食欲がない」「ぼんやりしている」といった変化もサインとなります。
- ・ 感染力は非常に強力です
- ・ 診断には10分から15分で結果が出る迅速抗原検査が使われますが、発症直後は陰性と出ること（偽陰性）もあります。
- ・ 検査の正確さは100%ではないため、周囲の流行状況や本人の症状を総合的に判断し、症状が出た時点から速やかに飛沫対策などの感染対策を開始することが重要です

## 急性胃腸炎

### ■ 病気の特徴

主にウイルス性  
嘔吐・下痢が急に出現  
発熱は軽度～なしのことも多い

高齢者では状態悪化に注意  
脱水になりやすい  
元気消失、食量低下が目立つ

ノロウイルスは感染力が非常に強い  
吐物・便から感染  
接触感染が中心

### ■ 診断方法

医師の診察（症状・流行状況）  
迅速抗原検査（必要時）

### 現場の重要ポイント

・症状出現時から感染対策が必要



7

急性胃腸炎です。

- 主にウイルスが原因で、急な嘔吐や下痢が起こります
- 高齢者は脱水症状に陥りやすく、状態悪化に注意が必要です
- 特にノロウイルスは感染力が非常に強く、吐物や便を介した接触感染が中心となります
- 医師の診察や必要に応じた迅速検査で診断しますが、検査が偽陰性となることもあります
- 診断がつく前から、胃腸炎症状が現れた患者さんや利用者さんには接触感染対策を始める必要があります

## 食中毒

### ■ 病気の特徴

細菌・ウイルスが多い  
食事後数時間～数日で発症

主な症状

下痢、腹痛・嘔吐・発熱（原因により異なる）  
複数人が同時に発症することがある

高齢者では重症化・脱水に注意

### ■ 診断方法

医師の診察（食事内容・発症時期）  
便培養検査、遺伝子検査

### 現場の重要ポイント

- ・症状出現時から感染対策が必要
- ・発生時は速やかに報告・記録
- ・同じ食事を摂った人の体調確認
- ・食事の残りがあれば確保（疫学調査用）



8

食中毒です。

- ・細菌やウイルスが原因で、食事の後数時間から数日で、下痢、腹痛、嘔吐、発熱などが現れます
- ・複数人が同時に発症することがあるのが特徴で、高齢者では重症化のリスクもあります
- ・診断には便の培養検査や遺伝子検査が行われます
- ・現場の対応の重要ポイントとして、症状出現時から感染対策が必要です。
- ・発生の際には速やかに同じ食事を摂った他の患者さんや利用者の体調確認を急ぎましょう
- ・また、原因を特定する疫学調査のために、食事の残りを確保しておきましょう。

# 誤嚥性肺炎

## ■ 病気の特徴

食べ物・唾液・胃内容物を誤って吸い込むことで起こる肺炎  
高齢者・嚥下機能低下がある人に多い  
発熱・咳がはっきりしないこともある

目立ちやすいサイン

- ・食事中や食後のむせ
  - ・痰が増える、痰がからむ
  - ・声がガラガラ（湿った声）
  - ・元気がない、食欲低下
- 夜間・臥床中にも起こりやすい

## ■ 診断方法

医師の診察（食事状況・むせ・経過）  
胸部レントゲン／CT  
血液検査（炎症反応）

## 現場の重要ポイント

- ・むせ・食事量低下に注意
- ・姿勢・食形態・口腔ケアが予防に重要



誤嚥性肺炎です。

- ・食べ物や唾液が誤って肺に入り込むことで起こる肺炎で、嚥下機能が低下した高齢者に多く見られます
- ・熱や咳がはっきりしないこともあります、「食事中のむせ」「痰が増える」「湿ったガラガラ声」などは重要なサインです
- ・予防には、適切な食事姿勢、食形態の選択、そして口腔ケアが欠かせません

## 尿路感染

### ■ 病気の特徴

尿路（膀胱・腎臓）に細菌が感染する病気

典型的症状

頻尿

排尿時の痛み

下腹部痛

高齢者では症状が非典型

発熱が目立たないこともある

元気がない、食欲低下

急な混乱・せん妄

尿のにおい・濁りの変化



### ■ 診断方法

尿検査

尿定性（白血球・亜硝酸塩）

尿培養（原因菌の特定）

血液検査（重症時）

### 現場の重要ポイント

- ・ 排尿状況・尿の性状変化を観察
- ・ 発熱や意識変化は早めに報告

高熱/震え/腰や背中痛みが重症のサイン

10



尿路感染です。

- ・ 膀胱や腎臓に細菌が感染する病気です
- ・ 典型的な症状は頻尿や排尿時の痛みですが、高齢者では発熱が目立たず、「急な混乱・せん妄」や「尿の臭いの変化」として現れることがあります
- ・ 高熱や震え、腰の痛みがある場合は重症化のサインですので、早急に医師の診察を受けましょう

## 蜂窩織炎

### ■ 病気の特徴

皮膚の傷から細菌が侵入して起こる感染症  
急に発症し、短期間で悪化することがある

#### 主な症状

- ・皮膚の赤み・腫れ・熱感・痛み
- ・境界がはっきりしない赤み
- ・発熱・寒気を伴うことがある

高齢者・糖尿病・浮腫（むくみ）がある人で  
起こりやすい  
小さな傷・水虫・褥瘡がきっかけになる

### ■ 診断方法

医師による診察（皮膚の状態）  
血液検査（炎症反応）

#### 現場の重要ポイント

- ・皮膚の痛み・発熱に注意
- ・赤みの拡大・左右差を観察
- ・傷・水虫・皮膚トラブルの予防が重要



Brown BD, Syed HA, Hood Watson KL. Cellulitis. [Updated 2025 Dec 13].  
In: StatPearls [Internet]. Treasure Island (FL): StatPearls  
Publishing; 2025 Jan-. Available from:  
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK549770/> より引用



11

蜂窩織炎です。

- ・皮膚の傷口から細菌が入り込む感染症で、急激に悪化することがあります
- ・皮膚が赤く腫れ、熱を持って痛みますが、赤みの境界がはっきりしないことがあるのが特徴です
- ・高齢者や糖尿病、むくみがある方に起こりやすく、日頃から水虫や褥瘡などの皮膚トラブルを予防することが大切です

## 带状疱疹 ①

### ■ 病気の特徴

過去にかかった水ぼうそうのウイルスが再活性化して発症  
高齢者・免疫力低下時に起こりやすい  
体の左右どちらか一方に症状が出る

#### 初期症状

皮膚の違和感、ピリピリ・ズキズキした痛み、かゆみ、軽い発熱

数日後に赤い発疹と水ぶくれが帯状に出現  
強い痛みが特徴

発疹が治っても痛みが残ることがある（带状疱疹後神経痛）  
顔・目・耳に出た場合は重症化に注意



带状疱疹です。

- 過去にかかった水ぼうそうのウイルスが、免疫力の低下に伴い再活性化して起こります
- 体の左右どちらか一方に、ピリピリとした違和感や痛みが生じ、数日後に帯状の赤い発疹と水ぶくれが現れます
- 強い痛みがでることがあり、顔や目に出た場合は特に重症化に注意します

## 带状疱疹 ②



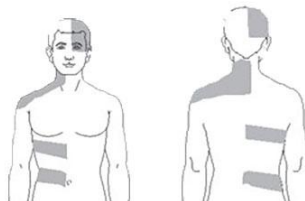
### ■ 診断方法

医師による診察（皮疹の分布と痛み）  
必要に応じて検査

### 現場の重要ポイント

- ・ 「片側だけの痛み+発疹」に注意
- ・ 発疹が出る前から痛みがでることがある
- ・ 早期治療が重症化や痛みの後遺症予防に重要

写真・図はCDCのHPより引用  
<https://www.cdc.gov/shingles/signs-symptoms/index.html>



13

- ・ 「片側だけの痛みと水疱」が診断の決め手となることがあります
- ・ 発疹が出る前から痛みが生じることもあります
- ・ 早期に発見して治療を始めることが、重症化や「带状疱疹後神経痛」という後遺症を防ぐ鍵となります

## 疥癬 ①

### ■ 病気の特徴

ヒゼンダニが皮膚に寄生して起こる感染症  
強いかゆみが最大の特徴（特に夜間に強くなる）  
皮膚症状

- ・小さな赤いブツブツ、かき壊し、かさぶた
  - ・手指の間など柔らかい皮膚に多い
- 高齢者・介護施設で集団発生しやすい

高齢者では

- ・かゆみの訴えが少ない
- ・湿疹や皮膚炎と間違われやすい

角化型疥癬

- ・皮膚が厚くカサカサ
- ・感染力が非常に強い（要注意）

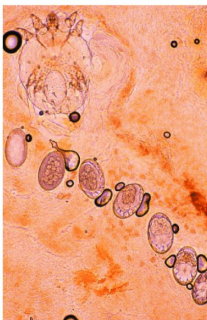


疥癬です。

- ・ヒゼンダニが皮膚に寄生して起こる感染症で、夜間に強くなる激しいかゆみが特徴です
- ・指の間などの柔らかい部位に赤いブツブツができますが、高齢者はかゆみを訴えないこともあり、湿疹と誤解されがちです
- ・特に「角化型疥癬」は感染力が極めて強く、集団感染に厳重な警戒が必要です

## 疥癬 ②

写真1. ヒゼンダニ  
メスは1日2～3個の卵を産む。  
成虫の腹部に卵がみられる。



国立健康危機管理研究機構  
感染症情報提供サイト  
「疥癬（詳細版）」より引用

### ■ 診断方法

皮膚の検査（顕微鏡検査：ダニ・卵の確認）

#### 現場の重要ポイント

- ・原因不明の強いかゆみに要注意
- ・確定診断がつく前から接触予防（手袋・長袖）
- ・発生時は職員・他利用者の確認が重要

写真2. 角化型疥癬の患者  
灰白色に見える部分は角化が進行している。  
角化した皮膚を顕微鏡で観察すると多数のヒゼンダニを認める。



- ・原因不明の強いかゆみがある場合は疥癬を疑い、ケアをする職員は確定診断を待たずに手袋や長袖の着用などの接触予防策を開始しましょう
- ・発生した際は、本人だけでなく他の利用者や職員への感染の広がりを確認することが不可欠です

## 結核

### ■ 病気の特徴

結核菌による感染症（主に肺）  
空気感染（咳・会話で広がる）  
ゆっくり進行し、気づかれにくい

#### 主な症状

2週間以上続く咳・痰、血痰・微熱、  
寝汗・体重減少、食欲低下、全身倦怠感

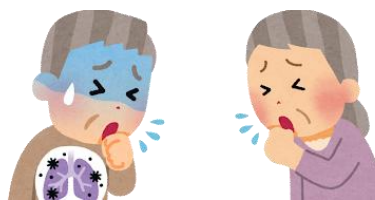
高齢者では症状がわかりにくいことがある  
咳や発熱が目立たず、元気がない・  
食事量低下のみのことも

### ■ 診断方法

喀痰の検査（塗抹・PCR・培養）  
胸部レントゲン/CT

#### 現場の重要ポイント

・長引く咳・体重減少に注意



16

結核です。

- 結核菌による空気感染症で、主に肺に感染します。2週間以上続く咳や微熱、寝汗、体重減少が主な症状です
- 高齢者の場合は咳や熱が出にくく、「ただ元気がないだけ」に見えることもあるため、
- 長引く体調不良や体重減少には注意が必要です
- 喀痰検査やレントゲンで診断します

## まとめ

### 感染症対策のポイント

- こんな変化に注意
  - 元気がない・食べない・ぼんやり
  - 咳・下痢・皮膚の赤み・かゆみ
- 「いつもと違う」を見逃さない
- 検査は100%ではない
- 日頃から標準予防策を遵守
- 感染経路別予防策は、感染を疑った時点で開始



17

まとめです。

- 感染症対策のポイントをあげました。
- 「元気がない」「食べない」「ぼんやりしている」といった、高齢者特有の「いつもと違う」変化を見逃さないでください
- 検査結果は100%ではありません
- 感染を疑ったその瞬間から、対策を開始することが現場を守ることにつながります

## 参考文献

- 1) 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト  
<https://www.niid.go.jp> (疥癬、結核、インフルエンザ等)
- 2) 公益財団法人長寿科学振興財団 高齢者によくみられる感染症の種類  
<https://www.tyojyu.or.jp/net/byouki/kansenshou/shurui.htm>



参考文献はこちらです。  
以上で「感染症の基本と主な疾患」の説明を終わります。